

2月11日のウクライナ情報

安齋育郎

①ボリス・ジョンソン、プーチンにインタビューしたタッカーを批判!!(2024年2月10日)

”世界中の人々が、タッカーが行ったプーチンへのあの滑稽なインタビューに注目しているが、我々は何よりもプーチンがで何らかの形で成功する運命にあるという考えに騙されてはならない。彼は失敗する運命にある！”

※安齋注:この叔父様、タッカー・プーチン対話に注目が集まる中で放っておけなくなって口をはさんだのですが、この程度のことしか言いようがないんでしょうね。どっちが「失敗する運命にある」のかは事実経過を見ればわかるでしょう。

<https://twitter.com/i/status/1756151539214032899>



https://twitter.com/kinakomochi_215/status/1756177926138261758?s=09

②「核兵器使用前にバイデン氏の記憶力をテストすべき」とのアイデア マスク氏爆笑(2024年2月10日)

米実業家 #イーロン・マスク氏は、#バイデン 米大統領が突如核兵器を使用することになった場合、「ピラミッドがあるのはどの国か」といった質問をバイデン氏に投げかけてはどうかというアイデアを笑い飛ばした。

ある風刺的なニュースサイトのジャーナリストは SNS・X 上で、バイデン氏が「自身の記憶に問題はない」と断言した演説についてコメントし、皮肉たっぷりにバイデン氏をからかった。

「バイデン氏には核兵器の発射を許可する前に、『大きなピラミッドやスフィンクスがある国はどこですか』のような何らかの質問を用意してほしいと思う」

これに対し、マスク氏は涙を流しながら笑う顔文字で答えた。

バイデン氏は 8 日、機密文書の持ち出しに関する特別検察官の報告書の中で、自身が「記憶力の乏しい老人」呼ばわりされたことに憤慨した。バイデン氏は演説の中で「自身の記憶に問題はない」と断言したものの、直後にエジプトとメキシコを混同する場面があった。

③クリミア大橋爆破を呼びかける記事を書いた Washington Examiner のトム・ロ

ローガン記者と編集長ヒューゴ・ガードンを刑法第 205 条によりテロリスト認定(2024年2月10日)

タッカー・カールソンのインタビューが行われる前のニュースになりますが、こちら流れが変わったと感じさせる出来事です。ロシア当局は 2 月 5 日、2018 年にクリミア大橋爆破を呼びかける記事を書いたワシントン・エグザミナー (Washington Examiner) のトム・ローガン記者と編集長ヒューゴ・ガードンを刑法第 205 条によりテロリスト認定しました。

西側の報道関係者が刑事犯としてテロリスト認定されるのは多分初めてではないかと思います(外国スパイ認定より強め)。日本のマスコミ関係者は大丈夫でしょうか…。

注目していただきたいのはトム・ローガンの記事が 2018 年に掲載されたことです。実際にクリミア大橋が爆破されたのは 2022 年でした。4 年も前に「犯行予告」していましたね。

クリミア大橋は全長 19 キロにも及ぶヨーロッパ最長のロシアの公共インフラです (ウィキペディアでは 18 キロになっています)。2022 年 10 月にウクライナ軍により爆破され、一般人 4 名が犠牲となり、家族で旅行に来ていた女の子は両親を一度に失い孤児になりました。

米国人ジャーナリスト、シーモア・ハーシュ(1970 年ピューリッツァー賞を受賞)が告発したように、この背後には民主党バイデン政権がいたようです。

クリミア大橋テロが起こる 10 日ほど前には、ドイツに天然ガスを供給していたノルドストリームが爆破されています。両国にとって大変な損害です。プーチン大統領はタッカー・カールソンとのインタビューで この事件の首謀者は CIA であることを示唆しました。

一方、一年以上ダラダラと本件の捜査を行っていたスウェーデンの検査当局は、このインタビューが公表される直前に捜査の終了を発表しました。タイミングがいいですね。

皆さん、彼らはメディアを駆使しまくって何をやらかすか分からない輩なのです。少しずついろいろなことが明らかになってきていますが、日本政府は暴力団とタッグを組んでいるようなものです。非常にもどかしいです。

この話が多くの人の目に止まるよう、みなさんのコメントや資料でこの投稿を補足していただけると嬉しいです。よろしくお願い致します。

(写真は 2022 年 9 月のクリミア大橋爆破テロ)



https://twitter.com/jupiter_russia/status/1756308259248431313

④アウジェエフカの戦況(原伸一情報、2024年2月10日)

アウジェエフカ北部の市街地では、バス車庫のウクライナ軍拠点を巡り激しい戦いが行われている。ロシア軍はここを獲ればコークス化学工場から南部への補給路である産業大通りまで僅か。ウクライナ軍は後がない。



アウジェエフカ南部。通りの西端まで、ロシア兵が攻撃を受ける脅威なく歩いている。完全に支配下におさめていることがわかる。

<https://twitter.com/i/status/1756225210112774308>



<https://twitter.com/GyotokuShogi/status/1756232436831396090?s=09>

⑤ 【字幕】タッカー：プーチンインタビュー② プーチンが大統領になってからの外交エピソード3つ(2024年2月9日)

<https://twitter.com/i/status/1755918884283277761>



※投稿者コメント:ウクライナの話の小出しにするプーチン!!!とんだじらし屋さんだっ
でも話が面白いから許す!!

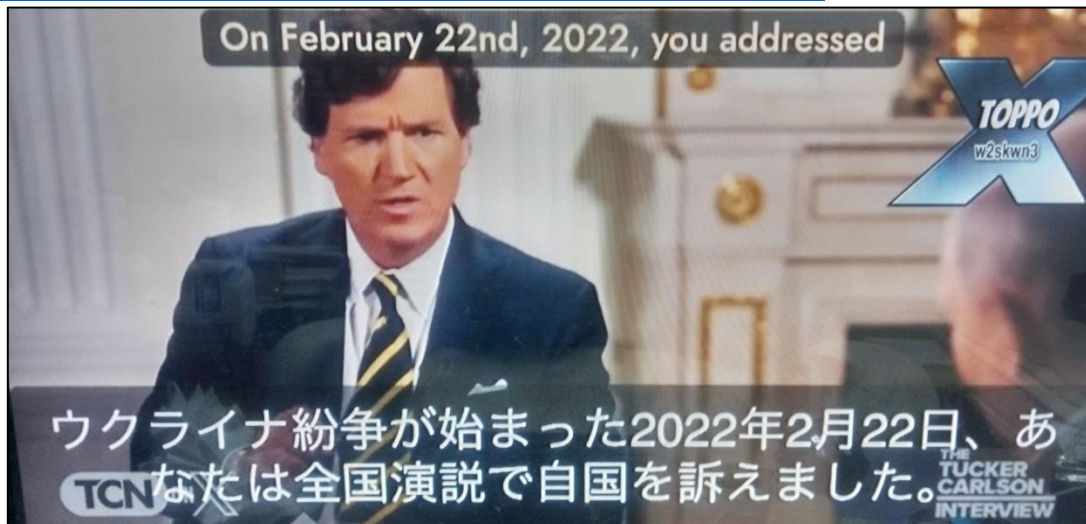
アメリカとの協力関係を築きたかったプーチンが拒否されたエピソード三つです
見どころは下ね~

⑥タッカーvs.プーチンインタビュー【2024年2月9日】

タッカー・カールソンさんがアメリカ政府に電話盗聴されているのを知り急遽ロシアに飛びプーチン大統領にインタビューをした動画を数回にわけて翻訳しました。

とても素晴らしい内容ですが YouTube と違いXでまとめて 2 時間以上投稿するより、重要な箇所を分けた方が見やすいと判断しました。こちらの動画はインタビューの前半 1 時間程です。ウクライナの歴史的事実を話しております。アグレッシブな内容に飛びたい方はパート①からをお勧めします。

<https://twitter.com/i/status/1755910438058082519>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1755910438058082519>

⑦スコット・リッターがタッカーvs.プーチンのインタビューを評す【2024年2月10日】

スコット・リッター:さて、世界中で聞こえたインタビューが終わった。タッカー・カールソンはロシアのプーチン大統領と対談した。しかも 2 時間以上にわたってだ。二人は待望のインタビューを行ったが、おそらく誰もが思い描いたような展開にはならなかっただろう。

このインタビューは、タッカー・カールソンのブランドと執念がなければ実現しなかっただろう。率直に言って、彼のプロフェッショナリズムと評判は、彼をクレムリンに引き入れ、ロシア大統領と対談できる立場にした。

我々はまた、ロシア大統領がこの対話に進んで応じようとしたことも評価すべきだ。彼ができることはすべてできたのだろうか？

いや、タッカー・カールソンはインタビュアーだ。彼はロシアの専門家ではない。ロシアの歴史家でもない。ロシアの複雑な生活に精通している人物でもない。

ウラジーミル・プーチンはロシアの大統領だ。彼はロシアの歴史を知っている。彼はロシアの魂を知っている。このインタビューを聞けば このインタビューが非常に力作だったことがわかるだろう、

ロシア大統領がアメリカの聴衆に、ロシアの歴史のニュアンスを、ロシアの魂の複雑さを紹介したの

だ。もしあなたがロシアの歴史を理解せず、ロシアの魂を理解しないなら、あなたは基本的に地図のない旅に出ることになる。それがこのインタビューの価値だと思う。

タッカー・カールソンは地図を持っていない。しかし、タッカー・カールソンには旅に出る勇気がある。そして、対話というより独白に近いロシア大統領との会話で、ロシア大統領は地図を作る手助けをした。この地図は、タッカー・カールソンだけでなく、すべてのアメリカ人視聴者を、ロシアを動かしている複雑な要素を通して導いてくれた。

そして、今日のロシアと西側諸国が直面している問題を理解するためには、このことを理解しなければならない。はっきりさせておくが、ロシアのプーチン大統領は画期的な情報を提供したわけではない。彼が言ったことはほとんどすべて、何らかの形ですでに以前から言われてきたことだ。

しかし、彼がしたことは、アメリカの聴衆が近づきやすい文脈でこれらの情報を提供したことだ。これがこのインタビューの価値だ。

これは本当に内容の問題ではない。興味深い情報も出てきたが、これはそのプロセスについてだ。タッカー・カールソンは現代ロシアへの扉を開き、ウラジーミル・プーチンの人格への扉を開き、ロシアの歴史への扉を開き、ロシアの魂への扉を開いた。

そして、ウラジーミル・プーチンが質問に答えてくれたり、時にはプーチンが促されることなく発言してくれたりすることで、ロシアについて学ぶために時間と努力を惜しまない個人、アメリカ市民にとって必要な積み木ができあがった。

そして、それを望む誰かが、私たちが前進し始めるための強固な基盤を構築することができるだろう。そして、これこそがこのインタビューの価値を高めている。何かを解決するためではない。何も解決しない。しかし、それがプロセスの始まりだからだ。タッカー・カールソンの天才的なところは、インタビューの技術にあるのではない。

インタビューの後に何をするかだ。彼は今、アメリカの聴衆にインタビューについて戻って話すことができるプロセスを作り上げた。これこそが彼の天才であり、アメリカ人と接する能力なのだ。

そして彼は今、弾薬を手に入れている。歴史に残るような環境の中で、ロシア大統領が彼に語った言葉は、まさに活力を与えてくれる。このインタビューを何百万人が見たのか、あるいは最終的に何百万人が見ることになるのかはわからない。

わかっているのは、これが現代における最も重要なインタビューのひとつだということだ。なぜならこのインタビューには、西側とロシアが戦争に突入するのを阻止し、西側の自殺を止める力があるからだ。

今日、西側でロシアが直面しているすべての問題に対する答えが、ロシア大統領によって示される。隠された意図はない。知らなければならない秘密の暗号もない。ただロシアを知らなければならない。

ロシアの特徴を理解しなければならない。ロシア大統領の決断の背後にある考え方、ロシアの背後にある動機を理解しなければならない。ロシアを理解しなければならない。タッカー・カールソンはロシアを理解してインタビューに臨んだとは思えない。

そして、このインタビューからロシアを理解しているかどうかはわからない。しかし、これだけはわかる。タッカー・カールソンはとんでもないジャーナリストだ。そして、タッカー・カールソンは、工具箱と道具一式を与えられたことを知っている。

今日は始まりに過ぎない。やるべきことはたくさんある。しかし、最も困難な旅でさえ、最初の一步から始まる。そして、タッカー・カールソンが今日、ロシアのプーチン大統領とのインタビューをアメリカ国民、西側諸国、そして世界に向けて行ったことは、人類を救うことができる旅への最も重要な第一

歩なのだ。

<https://twitter.com/i/status/1755821514237030591>



<https://twitter.com/Alzhacker/status/1756030642092204284?s=09>

⑧【字幕】タッカー：プーチンインタビュー① ソビエト崩壊からプーチンが大統領になるまで【2024年2月9日】

※投稿者コメント：インタビューの冒頭はプーチン大統領の歴史の授業だったので、とりあえず最近1990年代の話から切ってお届け！

見どころは下に貼ります

タッカーが今の紛争の状況を聞きたいのに、歴史的背景を話すプーチン🇷🇺でもその内容がメチャメチャ面白いよ！

特に、エリツィンがアメリカに投げたメッセージには何故か若干心が痛みました。

<https://twitter.com/i/status/1755829949230108794>



<https://twitter.com/Jano661/status/1755829949230108794?s=09>

⑨【字幕】タッカー：プーチンインタビュー③ NATOの拡大・オレンジ・マイダンクーデター【2024年2月10日】

※投稿者コメント：いやいやいやいや。盛りだくさんです。お腹いっぱいです。

プーチンが語る NATO 拡大とウクライナのクーデター裏話。

当然のようにウクライナの歴代大統領の話をするプーチン。しかしタッカーはウクライナの歴史はチンプンな様子それだけウクライナの過去を知る人は少ない。

2年前の今日、ウクライナの場所を知ってた人は日本にどのぐらいいたのかな？
バイデン大統領の息子がウクライナで汚職してたのがバレたニュースを見てた人はいるのかな？
見どころは下に。

<https://twitter.com/i/status/1756181470551679280>



<https://twitter.com/Jano661/status/1756181470551679280>

⑩タッカーのインタビューをきっかけに西側メディアがプーチン大統領に大量の要請【2024年2月10日】

インタビューの要請は、US米国、FRフランス、ITイタリア、ATオーストリア、AUオーストラリアに拠点を置く報道機関から来ていた。クレムリンはこのような関心に感謝している。- パスコフ



https://twitter.com/kinakomochi_215/status/1755972035988300041?s=09